

^ 13
3112
5止



忠孝潮來府志卷之五

東都 談洲樓 焉馬著

諷

いこ出寫の菰の中にわやめ咲と露あふれ

下総國神崎大明神とゆふに御社あり多し東鑑二曰文治二年丙午

の三月十二日。関東御知行の内年貢未済の庄々催促をらりふふるは

ほく。家司の流をゆめて是を下され其書今日到耳と有此中下総

の國大戸神寄れ庄々殿下御領と記のれハ此所をいふや。天神七代皇

根尊以祭神とし。近御の鎮守と敬ひ奉れ山高くして松柏茂るる

中に大き形神木あり。其木怪なり。世人何れや物トや

といふ難蛇の六々案内あつる事なれば。紋蛇の八を伴ひ裏道より木の根

小取付山み余路登り。明神の森み志らるる休まければ。ハがのめさう今まで

委しき事成りしと斯に上り何ぞ包みん我を信田の家来統良雲八
の者なりと本名以名系くしく薩鳴兵藤太が工の密事成語りせし
成就せん汝も侍小取立ん先刻出合し鉄平に逢て一大事盗取られ金
子の兩人して配分さし是より其方へ下れ者ども以集りて鉄平が
打殺せ万一都合悪かりまば此場を二人あて立退んその時こそ此
の菰れ中に一村菅蒲の笑し所を日當に岸より五尺さうりし陸
地を掘りて一振の太刀あり是を持って来れど首尾調ハ幸ひうねの唐
銅の舟あり舟を打たせよ夫を相圖に立退んと云わく我を隠す
と此宮の内こそ屈強のたとろなりとあめし合せ社檀の扉を押し
やがて内小忍び入まば公得たりと難蛇の六瓶がぶくりに走りぬ
甚内が女房おふちへ峠甚く眺み庄屋かへ頼み金兄鉄平が力にて

ら後も空小臈夜を尋ね来れ道筋も夫が髑髏の一軸と持居り
去りて後拾ひし沢又信田の家来室に紛失せとけり我もこの
始ての事成れば是を持来りし金子れ盗人も我なりと跡へ文進
命を百両の金子の鉄平の人の口じ登美川が舟より金の足あし
事ども以語りしやなづわ所の村よはしと明神の森れこやか
え廻りし繪馬堂の主人ふまれ心足りたれあり取のりえれと
紙たむこ入これも籠控のとしと錢をり詠月並に拂も残酒の
たし當名を六とあれからは寢あより此所なるのひ居り
よりとや兩人と遊のびく遠くへ行し追々んとせえり鉄平
すかつく妹を街に引とら病にれ我子へ人小のついで其内
れ安否もやと今追々若牙にのりすらののれ付し誰か力なり

忠孝明徳待志云々

元也。とは言わく。百支の令盗を。れい。決る。なんと夫へわれおとせひ
 ほりせ。世の中。因果と。一人。引く。報ひ。罪。浅。猿。狂。氣。れ。こ。こ
 泣。入。所。詮。死。より。外。は。し。と。兄。の。刀。に。ま。掛。れ。を。鉄。平。吃。つ。言。う。え。
 う。海。へ。な。れ。此。の。り。は。其。方。が。命。を。捨。て。甚。く。助。と。誰。が。育。ん。死。を。一旦
 母。して。生。ひ。さ。げ。が。し。ぬ。人の。盗。賊。も。唐。高。麗。へ。の。よ。も。逃。は。じ。い。く。に。女。が。れ
 か。と。尋。せ。と。う。海。を。か。た。る。や。あれ。繪。馬。堂。の。額。を。ん。よ。神。功。皇。后。と。り。は。
 仲。良。天。皇。の。御。后。なり。た。る。荒。紫。に。お。り。て。懷。妊。の。う。ち。も。仲。良。天。皇。崩。御
 あり。か。武。内。の。大。臣。と。謀。み。や。ぐ。し。三。韓。と。せ。め。んと。出。立。と。ま。ふ。時。母。肥。前
 國。松。浦。の。河。を。て。釣。を。な。げ。我。お。り。あ。る。け。み。え。ん。と。此。餅。を。む。む。は。じ。と。云
 て。揚。げ。入。へ。細。鱗。魚。を。ひ。く。り。今。に。至。れ。ま。で。此。河。を。て。女。人。釣。と。た。へ。魚
 を。得。れ。と。い。ふ。又。檀。日。の。浦。を。て。御。髮。を。海。水。に。ひ。じ。洗。ひ。と。ま。入。は。怨。地

友。方。へ。つ。れ。れ。を。即。その。ゆ。に。束。縛。て。髻。と。し。男。子。に。貌。を。假。く。み。が。から
 斧。鉞。を。取。め。お。ひ。の。石。を。と。り。て。腰。に。と。ま。み。呪。い。て。曰。わ。く。胎。内。の。皇。子。征
 伐。終。つ。て。か。へ。ん。附。誕。生。は。し。た。ま。と。誓。ひ。終。り。異。國。を。討。平。均。日。本。へ。皈。朝
 あり。皇。子。誕。生。は。し。ゆ。と。八。幡。宮。に。これ。あり。と。か。や。神。と。人。と。い。は。れ。も。い
 と。則。本。の。主。なり。我。子。の。命。は。天。に。ま。は。り。せ。金。子。の。行。跡。知。し。と。ら。ら。ん。と。
 夫。が。汚。名。を。す。か。れ。は。じ。と。こ。お。公。を。は。り。と。ら。う。と。兄。の。言。葉。に。實。を。と。よ。
 の。繪。馬。と。そ。の。狂。言。奇。語。に。写。し。と。無。間。の。鐘。の。世。と。蛭。小。賣。ら。れ
 未。来。と。地。獄。に。墮。る。と。も。海。川。に。沈。じ。金。ひ。と。所。小。虫。の。せ。ま。と。觀。念。世
 も。女。の。一。心。を。引。か。我。へ。又。奪。ひ。と。ら。れ。盜。賊。の。有。家。を。知。せ。た。び。多
 南。無。や。神。奇。大。明。神。と。神。前。に。は。か。て。眼。目。も。あ。ら。ば。三。拜。九。拜。極。致
 成。と。り。て。一。心。不。乱。と。打。り。水。鉢。ひ。び。た。小。相。圖。と。社。檀。の。扉。ひ。く。く。成



お為とほりしころ海付名化とわれからへ夫の日も海尋よとれ。二日月九少こ
 めらばれ申と。妹がごと葉に實とれよ。りぞや左門後の物語。大和田村去原
 むて。雲八小出合し。附のいりも分ね。闇の夜に。月の光。現。たれとの不思
 議との名。劍。威徳ふと。た。して。えん。と。引。わ。け。が。自然と。輝。く。刃。の。ひ。り。
 又。常。闇。れ。雲。と。れ。く。面。も。海。く。と。又。渡。れ。岩。戸。の。い。し。も。か。く。あ。る。ん。神。力
 應。護。の。あ。れ。も。め。れ。た。と。り。ぐ。へ。通。る。も。あ。り。助。け。て。並。ぶ。と。え。上。る
 梢。に。雲。八。が。か。ら。ん。と。れ。と。え。付。と。る。と。難。く。登。り。早。業。に。雲。八。も。一。生。懸
 命。た。が。し。小。瓶。いた。が。と。髪。中。じ。と。ひ。つ。と。れ。賤。布。の。紐。と。れ。く。小。判。と。と。ら
 ら。し。と。落。下。に。妹。が。拾。ひ。集。れ。と。海。の。底。に。枝。踏。折。て。あ。く。と。大。地。へ。撞。と
 ら。し。と。の。ま。より。あ。く。落。と。れ。刀。取。も。も。え。せ。と。雲。八。を。只。一。刀。に。討。敵。押。入。と
 ら。め。を。し。た。り。と。れ。斯。と。れ。内。と。や。あ。の。め。に。及。び。た。れ。人。の。え。ね。間。と。ら。退

これ信田の家の鶴崎の掛物。甚内がまより出されへふ葉の家。れ。日月九。鉄。卒。の
 働。めて。鶴。崎。返。し。や。恩。が。下。忠。臣。負。女。の。兄。弟。や。と。譽。ね。人。と。な。り。ひ。た。

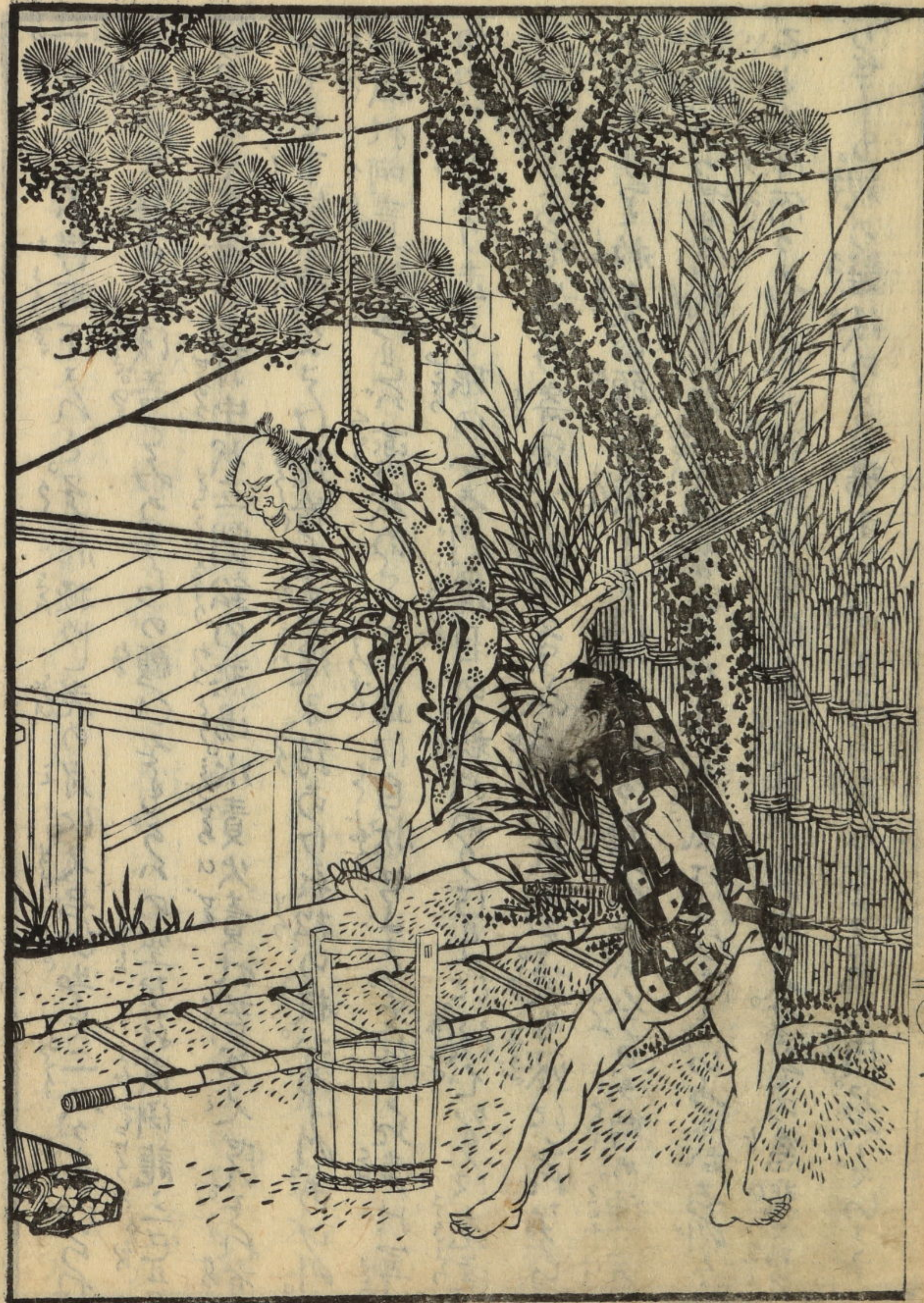
諷

あ。め。て。つ。の。と。太。靴。や。ほ。み。な。ん。が。あ。り。て。も。に。や。な。ね。
 め。て。と。く。が。と。つ。か。と。う。れ。を。産。み。お。つ。急。御。代。の。松。
 爰。に。薩。嶋。兵。藤。太。と。抗。良。雲。八。と。う。ろ。を。合。せ。鶴。崎。の。一。軸。或。拂。々。藏。し
 と。ふ。し。ほ。け。嘉。膳。を。殺。し。棄。つ。せ。し。が。即。時。小。命。死。失。ひ。又。何。の。の。ら。が。ひ。と。ふ
 且。し。谷。底。に。角。治。が。死。骸。と。り。豪。と。う。と。心。な。く。は。是。に。仍。て。浮。島。大。八。郎
 英。時。何。と。函。雲。八。が。所。存。不。審。と。り。と。糾。明。と。ん。と。い。ふ。よ。う。と。暫。く。お。と。陰。と。し
 と。雲。八。を。逐。電。と。せ。管。領。死。偽。了。家。の。實。死。失。し。罪。と。小。太。郎。に。負。せ。ん。と
 す。れ。折。ぐ。ら。登。美。川。が。親。茂。治。兵。衛。玉。造。の。中。へ。忍。び。入。金。子。盗。と。り。た。れ。を
 牛。堀。軍。六。が。め。捕。と。れ。こ。と。幸。ひ。鸚。鵡。の。一。軸。も。茂。治。を。捕。が。盗。に。し。ゆ。白。状

忠臣蔵

こと。罪科に行ひ事なまほさんと。日毎お責れと。大八晴好く宥免
 せられ故おりにほりせと。今日より時かかりに詮候せんと言合せ。大八郎と
 例年鹿島の神事おれ。此日糸指の笛守なり。此内お付人と兼く一味
 の武淵龍三にい付。獄屋より廣庭お引いせと。詞和ら。兵藤太毎日
 此同調度。れ責とい。其おもほや。疲とほん。隠におよと。速お話
 略の一軸盗と。しと。白状せ。その苦しみも。首は。と。捕ら。て。声。を。茂。治。を。候。へ。
 瘦お。と。落。し。顔。色。に。と。ほ。も。お。り。れ。死。を。と。ら。ひ。此。お。も。中。と。海。り。令。れ。角
 け。ほ。ま。り。風。と。い。し。と。れ。出。ま。と。忍。び。ひ。の。塚。の。外。先。お。這。入。盗。人。お。
 身。の。上。り。ら。明。な。げ。は。し。所。百。支。の。金子。お。投。出。て。行。方。お。れ。ど。その。跡。お。て。見
 付。られ。ん。拙。者。が。不。運。同。類。と。も。夜。盗。と。も。咎。の。次。お。ハ。心。と。ら。ご。し。その。外。お。
 野。遊。の。一。軸。盗。に。お。え。且。と。う。て。と。れ。は。し。な。此。お。の。け。悲。お。吾。が。命。お。

一日もいお。け。取。下。さんと。是。悟。極。め。老。の。身。に。又。お。い。お。と。二人。が。事。い。ら。れ
 と。胸。お。せ。れ。ま。れ。涙。吾。と。み。ま。ら。の。願。ひ。を。も。ら。の。空。に。れ。武。淵。龍。三。已。と
 い。ら。ん。と。て。置。を。れ。背。中。お。立。割。鉦。の。熱。湯。水。責。火。責。れ。苦。お。え。せん。それ。者
 ども。と。下。知。お。連。な。さ。け。用。捨。も。荒。繩。お。釣。あ。げ。れ。松。の。枝。お。る。の。あ。げ。の。
 地。獄。れ。呵。責。絶。入。と。お。薬。お。あ。え。ま。直。に。白。状。せ。よ。と。と。れ。と。れ。声。れ。耳
 にお。れ。外。より。走り。娘。のお。あ。の。縄。目。の。親。れ。あり。は。ま。に。涙。む。かり。は。先。達
 て。仕。方。を。い。て。い。け。寄。り。下。部。が。る。と。て。制。され。お。ぞ。父。も。涙。に。くれ。な。ら。し
 此。何。と。よ。と。救。免。の。願。ひ。な。し。と。は。せ。と。れ。が。顔。を。れ。今。日。お。始。め。神。の
 け。引。お。り。せ。ま。ら。同。と。れ。ハ。二人。の。者。い。な。り。し。ぞ。氣。ほ。ひ。や。と。い。お。お。志。の
 石。より。除。何。く。あ。ら。し。お。指。先。の。書。假。名。文字。れ。い。は。し。せ。あ。その。慈悲。と。お
 り。せ。も。親。の。難。候。の。と。の。場。お。と。間。お。あ。あ。事。お。と。と。海。の。内。お。と。い。と。



悲しきも。はして二人を何國へも行来知れざと漬小けけ。此の事の由も
 老の身は。益かひ推原し。かほしひと同理りれども。別條と有はし。れども。昔
 事も。伊慈悲に。追付めりぬれぬ事。かろふに。苦しめて。煩うたうと。
 覺悟せめて。居るがらも。夫と知せぬ。かげうひ。さういご。あな。か。銭が。怪び。
 める。この。お。伏。拜。し。伏。龍。の。足。蹴。踏。れ。し。こ。こ。邪。魔。り。れ。離。支。
 その。痘。の。耳。の。父。え。れ。を。畜。生。同。前。こ。こ。や。よ。ふ。さ。け。親。父。爺。め。が。い。ふ。こと。
 みる。偽。り。命。の。つ。ても。首。う。た。ひ。と。や。う。せ。と。れ。と。ひ。つ。ま。れ。を。サ。れ。待。籠。こ。
 その。女。に。用。事。あり。茂。治。多。清。め。が。娘。と。幸。ひ。た。と。く。りの。の。言。と。も。渠。儘。
 戒。め。責。め。た。ら。ば。茂。治。兵。衛。に。よ。り。た。ら。れ。盜。賊。と。我。あり。と。白。伏。さ。る。
 事。も。あ。る。ぞ。と。あ。が。れ。く。と。い。ふ。も。か。と。す。ら。た。と。さ。り。捕。へ。む。ざ。ん。や。お。
 儀。と。二。寸。繩。を。お。親。の。身。に。狂。氣。の。ふ。と。く。薩。嶋。を。白。眼。け。け。あ。ま。り。を。

いばこま候と。毎町く。同。行。う。叔。の。賣。買。その。方。に。盜。と。金。此。お。や。ら。ん。
 責。苦。お。う。け。夫。と。い。つ。せ。て。後。難。が。道。と。れ。の。離。支。の。娘。小。憂。目。か。え。と。る。
 と。は。鼻。怯。の。侍。早。く。殺。して。さ。う。め。よ。と。怒。る。眼。小。涙。と。浮。れ。碇。言。骨。を。碎。か。と。
 身。の。さ。び。さ。ね。ふ。か。れ。と。も。知。ら。ぬ。事。が。い。ひ。え。ん。や。切。も。突。こ。と。勝。手。に。
 せ。い。と。身。を。投。出。し。と。れ。悪。口。難。言。息。の。根。と。あ。ん。と。立。か。と。二。人。が。責。ん。せ。
 す。れ。所。次。の。間。に。声。あ。つ。と。禮。義。と。富。足。に。生。盜。賊。の。貧。窮。ふ。起。國。に。盜。
 人家に。荒。邪。正。気。直。さん。先。待。と。よ。と。声。を。か。け。て。入。り。ぬ。れ。是。薩。嶋。大。八。郎。
 英。時。なり。薩。嶋。武。洲。顔。見。合。を。工。面。遠。へ。い。ち。も。い。と。れ。ぞ。大。八。打。向。ひ。
 聖。殿。め。は。今。朝。より。例。年。の。通。り。鹿。嶋。大。明。神。へ。平。安。鎮。護。の。御。祈。り。
 終。日。滞。留。め。れ。さ。れ。所。お。の。外。早。ひ。退。出。と。底。氣。味。つ。る。く。同。れ。を。成。
 ほど。其。候。に。お。い。て。ハ。神。拜。相。海。國。家。平。安。結。護。の。守。り。頂。戴。し。その。後。ハ。

りも大官司がとめて後日の餐養馳走とほが例なれども此度の盗賊とて兩
 人立合吟味せよと管領より仰と謂殊に御家の一大事ゆゑ早速舟
 宅とて所只今あれゆらりあられぬ答もなれ小女といひ瘧の難支をの強
 同せんとのれ最早夫及らぬこと其状を茂治を尋が口より百兩の令
 子へその夜盗賊のまより貫ひとのれ科と同類母越れ此より五十
 日百日後命なきは盡その内小室の盗賊と外より出んもとりはば老人
 といひ女と言責殺さば詮議の種が失ふ事此とて後を社清勘弁との
 和ふか不理を解てしどもゆらぬ兵藤老との後一向おがひのわら毎日
 おほし長詮儀公用も繁多なれば今日より時がりとし合せ益四時
 より九時までの拙者が評議九ツよりハッはははははは役をくれ所存を
 りつとてはるほは見物めれと横ふひと出と牛車じりの大八

斥きりて快子いふとひる居れ上るね鷲の薩寫兵藤やが龍とみ下知れ
 を公得ると割竹ひつ抱是くは小女郎を目の前ふ打と落と不便ふとや
 遠わくせといひ声もにつけ打おあつ何と泣声と出ぬの何とつあ母
 とつ若む目前地獄と落紅蓮の氷氷さられ又焦熱叫喚此炎
 の責もかくやえ親もとくは血の涙安方ならぬ憂多ひ我身をいとつとら
 よれへ又ひとまじれ情なれ下都の繩の強られと倒とて仰向めらじし二
 人うらまはと目も當られぬ風情なり茂治を尋の大声あげ今更にはかくせし
 盗取とて實れ有家白状いととまじし内此繩ゆれしむれとらふと急せて
 浮嶋大八おのれ茂治兵備か責責苦にとる憶と跡方もおさるゆなを
 この上罪を重われ同理と制しむれ兵者大又ととも半後の裁判の
 もお捕ひあれるやわく龍之老持めが建解へとて細代の魚も同共とあら

最負なされても細工と流々仕上の詮滅情の其纏ゆるせと下知ふとひ
縛獲ぞくは痛むとん氣のありはぬわしとれと詰まれば身動れはくも弱
よわく小声ふかれれば耳ふだてふめり龍三が刀ざいさう。さしと切由大
敵武闘う肩先わけてはらう。切付れ恨の念刀からよかりし死
ぶはなり。さ狼藉とさら騒ぐ。其間に刀取座。腹に突立覚悟の茂治身坊
おろつてふ氣へてんさう。追取刀に薩鳴う立以隔れ得島ふとや九の
時計の教。うてかりし大八が復目も耐ふ表は侍一人庭ふと突。只今神崎
甚内とやい浪へ去月八日夜の盜賊と我なりと自訴かり出故さうく
相待とさうはもせ入と。や是へといさ間もお。前後を取巻る侍。十捕
縄すなもめはかえんと。眼配とと事ともせわ大膽不敵の神崎甚内。
つとくと入まればさうとさうと二人が腕づつと捨つ。聊示ぬるさ全

とつとひひの仕はわ。や上れ一依のりと大小投也。恬然と拙者るの神寄ふ
住居いとも涙く甚内とやい者といさ声耳にや入る。けん苦痛のうらに茂治
と清と。甚内が顔うらながら。己さる尾滝甚内か。びや侍畜生よくも差へと
あしな。顔むと娘おほせ。君傾城小賣し。石部文之進見つとれとれ
か。怒の眼お血じれあり。は。扱とや生害のりけう。残念や。その恨とけを
某とて。若氣の誤ふ葉の家と立退。半後の娘と賣とれ。誤今さういも
詮りた事。年月たつと後悔もて何卒おせを清と。其えのけ。清を
尋んおと思ふ内。才清の金もえは。り。文落せ。との時。風と。ひけ。出
ま。お。才の欲おせぬ澄楓もは。八日の夜のう。盗と。お。百。お。子
百。お。い。則此甚内と。て。お。何。その夜の盜賊と。お。お。あ。あ。
け。お。や。甚。を。文。之。進。と。い。や。貴。後。と。知。ら。ば。其。場。で。対。お。思。お。も。を。



る海の上には舟の為ふせり盜賊も皆悪念のつと業を志金成めし
茂治兵衛へかつて寶の盜賊なりと命れらる及ぶは始てけし勢勢れ
掛物よと信田の宝よと則持まひせしと茂治兵衛が助命を願ひ我と
令子の盜賊れ罪科を請人とあいにそれ事なると鶯の此用。後念と
よといひ小又もさしおれ薩島兵衛とてとそれ横道者。その一軸
是へ出せ。匈匈かおれを大八とておれとて。又ても貴殿の裁判何と
とちうひのぬる。細工を流々仕上の詮議見物めれと浮嶋が勢勢返の
挨拶おそめておと言葉なく。面ふらして守居れ。大八も甚内お向ひ
尚家の室その方かまに入られ子細といひ此方おも又おめりれりめれ
よと取なし得とてとと仁めれ言葉に甚内が懐中よりあめいの一軸
取出し浮嶋がとと泳め。げおれかたけは家の室是にけけとも早

よりしは茂治兵衛が此の柄と惜むに薩島がどがれ。茂治兵衛は盜賊の分と
あて武測竜三を殺害したれ大罪人又甚内ハ盜賊の張本この一軸を己が
盜と。今おりては様かまに持系せしおめんと權威をかたにさめはれむ。
甚内怒つていふ信田の家れ人面獸心誠や楚人の沐猴して纓冠と。様
に烏帽子とほそのれが事。今日知つたれ大悪人その流技をさせんぞと。密書
の引表取出し荒波山の谷とらめて此一軸と拾ひし。はこれ獵人とららあはせ。
さかた帯に袂や書面とじりへ切てなれども是又よ。事は夏ゆ。兵衛を
へまゆしと。慶美ハ勿論武士お取まはるとさく。神々藏の荒良屋ハ
武測龍とそれをけ換とせしおせお取まも浮嶋が。おほくいじり。蜜虫
の斥部。あつり合し文言の一通はしは薩島どの足る。れよ。子原嘉膳の
通れを待鉄炮をりつと殺害せよと兩人より頼りの文言貴殿の名も書記。

ろんと見えがびと見か。突はけられて兵藤太胸ふらり當正しう丸められ
 体中打なみあてとぞわれりて存せね頼人の筑良雲八武測整ととありか
 友人がたそふこそ思ひのせは雲八の先達てより行急あれど大方これ故の
 事なるん又此書面の積とつみ跡とて其が名を傳り家國を礼と意なる
 う但し此書友たが出頭を稽と謀書とりて罪小落さんとすれ者の仕業と
 度せんぞ以とびんとすれ龍三の落命死人小らほは残念ふ万なりなく大切
 の室度ぬ人の所家と長文おたごい不安堵しとて一刻も早く此書以管領へ
 上と權威とまに氣味づく其場成道とまゆねを甚内の藁とまほ
 能授とれ極悪人穿鑿少もよらど此場を易くひくれの群羊れららふ
 虎を故とよやいん信田の家ふおいて智勇兼備のこころわれ浮嶋度とも
 賢くは賢慮のつくれ事なれやと同ハ大八莞示とお笑流石も千葉



殿の家臣よくも下世しりのうね此場をまき返せし當家不侍うれ繫糸馬乃
 御旗薩嶋がわづり置此場おいて擣となまは一味の族これをせ失りんと
 案の内夫故不詮議もとげぞ公をくぬなり吾斗畧の暫時のうちに忘れや
 さん何れどもあれ成治兵衛の武士の果とつらまがら健氣の切腹とげし息有
 うらふいせはひるれありと家来にけ付氣はけの妙茶お残もともに分抱みそ
 めぞ息ふれ返し目をひらた痛手にくらせれあり極小大八を声をかけ其方が
 手ふりけし武測整との當家の逆賊なれは汝お罪はし又娘登美川のふ系丸門
 が世話となり。伏倉の町人柳屋勘兵衛といふ者より。牙替の跡金調達とて彼が
 方に預り齒はし主人お丸門はと添近頃この館お思ひ玉へと侮悪一味の族
 取せん義いそひそいで事隠便の謀今日只今靜謐小治を所なれば此うへ娘が
 事ハ氣ばうひそる其方も以前ハ武士これを冥途の土産として未未成佛致

ことばしと情も深し浮嶋か言葉今後の耳小や通下れば苦むれ声の下よりもこの
 有がた仰お武士の胤と恥しや心ハ匹夫下郎に劣。房長宗の茂治を捕せ
 成さかたれ其上に子ゆゑ不迷ひ盗まら。六十一の白髪首木の空へあがれそ
 都ね業晒本卦歸ふ家へ帰糸もなね腰抜武士せめての奉に腹こんで本
 来空へ立かつれが我先祖への言状と立派小いと其内小お残と指はし両手
 合せ頼むもはふいせれね息ぼうひ苦痛の中にも子をぢ親の慈悲公むまの
 お残耳小おはせど口へ出ど胸小ほり悲しけは涙いやまの哀さび又れ小大八公
 けは扱ハ茂治を捕その方ハ六十一と減小今年ハ文龜元年辛酉とマヤ
 酉の年の出生なり。幸ひの事こそあり公をたれはよくせとかの一軸とあり
 出し柳の鶯の懸りのハ唐士玄宗皇帝の時嶺南より白刃の心を献ぐ
 名はけて雪衣女と呼詩の詞を教ふよく誦こと人のびに帝揚貴妃と雙

六をららむひ勝はしくえゆれ時と雪衣娘と呼と人は局中と報弁してその
 行列をれととりて亦多心徑を授まれば捕と僧小劣らとこや後小鷹
 の為に搏とく死を帝甚と惜せむひ其血泣とろと馬所のかしら酉の日の
 者の肝の臑れ生血を役影みらして用れ耐ハ忽症そのゆとまはとまは
 は目前は血一尾娘に吞せおらふと死をれ本懐満足なとんぬ何や
 いくもと有ひとハ茂治兵衛とらじと志と有がた事成すのうな大死る
 ぬ我生害もとや此世におりひハ珍らぬお頼とらうん其内及と我子に上帯解
 不ど死切口にと次はし込臍を引生と其苦しと側小かじと娘のお残とかり
 はくをを其内がに子にとめてにとありあり有合の器にまざり込陰とら
 生理學と体はと込込血泣も知死期時親のつれお咩ととらう。志はし正氣ハ存
 され娘甚内ハ落され刀とりのわけて既小自害ととんたれば大八声かり何



おろかなよ。立派な聲を聞かす相せくやれ。氣はひきとれる世の中。お何の事か。余り
 はねとんりふふの一言もおろふようになりもせむ。嬉しからふとてとて。涙
 ぬぐふかたら事。耳ははるほどおれをばばて。明暮は世を。今もこおとい
 たとも。ほろ親と冥途の旅。誰かよ。海とをんわね。其上親の生血。しを
 呑といふの。鬼と蛇。現在。親をふの。婆婆へと。海に。身を。か。声。揚。今
 子ていられぬこと。の。業を。か。説。が。ぐ。兵。制。して。浮。大。八。下。部。よ。それと
 茂治。ま。清。が。死。骸。を。駕。不。法。の。こ。ら。い。そ。あ。れ。を。や。く。と。の。り。り。れ。が。お。ま。川。と。側
 かり。刀。とり。わ。け。黒。髪。井。と。お。し。切。て。身。は。さ。さ。の。深。の。尼。と。なり。亡。父。母。小。香。花
 や。向。の。水。も。無。量。壽。寺。に。賤。譽。比。丘。尼。と。名。残。と。甚。内。が。は。し。圖。めて
 お。為。も。友。に。野。辺。と。り。頼。寺。へ。と。た。り。行。折。ら。四。方。に。貝。鐘。大。鼓。人。馬
 の。足。音。鯉。波。山。も。崩。れ。を。かり。され。い。そ。事。と。そ。甚。内。が。推。量。お。遠。と。

薩嶋一味の奴原攻寄れと見え。元端切てより散えといわれ。大八是
 せと。軍術未練なる兵藤太。今寄られ。の。あ。は。し。彼。が。田。主。と。幸。ひ。ふ。
 砂山の城へ押寄。繫馬の御旗。より返。され。よ。忍。び。の。軍。勢。に。向。て
 若。これ。を。せ。と。り。て。返。こ。お。ま。ば。中。に。つ。ん。て。討。取。と。後。陣。の。名。よ。め。
 ち。里。九。門。計。畧。違。つ。て。揚。貝。の。せ。ゆ。れ。へ。と。討。勝。て。ほ。び。の。凱。歌。の。あ。ま。に
 こ。そ。め。い。んと。い。ふ。間。も。表。お。馬。を。放。し。勇。そ。ん。で。佐。原。嘉。藤。治。御。旗。押。立
 度。お。込。り。に。し。母。に。ま。名。砂。山。の。城。へ。し。せ。案。内。知。れ。味。方。れ。勢。城。門。近
 く。攻。め。た。敵。の。方。を。思。ひ。も。あ。ら。び。関。の。声。お。驚。て。太。刀。よ。鐘。よ。馬。お。鞍。う。ら
 久。騒。ぐ。其。中。に。薩。嶋。が。腹。心。と。頼。な。れ。牛。堀。軍。六。矢。倉。お。あ。り。四。方。と。え。隙。
 兼。て。の。陰。予。露。頭。と。つ。敵。と。目。近。く。寄。れ。そ。や。命。惜。む。者。ご。も。と。と。
 より。早。く。弓。追。取。に。は。り。引。結。放。つ。矢。に。味。方。れ。先。陣。射。せ。れ。志。と。ら。成

薩嶋一味の奴原攻寄れと見え

十八

て見へければ其下知して一打ごとく引退く是をふれより軍六と矢倉ととび
 下り馬小打をふらしたは返して退く中り過して中にけりて打てければ牛堀
 も太刀技とほ。暫時かひいど戦ひしがいざや組んと太刀投捨馬上まがらひんづ
 と組両馬が合ふ動下と落じも嶮岨の幸なれば互にけり板屋の散らん
 なく敵を取てゆせ首かごと切し其後ふから困ぬれへ残の坂原のふしと落
 行降参して念まう御旗とり也。只今凱陣はると大息はのこ坊坊又も
 人音さうじく。入まれば原九門小の腹巻も花やうに握々排の陣羽織
 裾まがらに着はしつ。跡小續く鉄平が肌あ小具足章勝當南蠻ごりの
 鉢巻あめ好ととろの太刀佩兵藤太の傳のげ廣庭に引とて今日より
 信田の家臣真壁鉄平景光と御取立の奉公とじり悪事此張本兵藤太
 横道者の蟹侍とられが住家の砂山の踏洗されて穴迷ひ。そとや道れぬ道

目の恥勸念ひつづとられば薩寫念念の齒がみは。謀討とおひし。おかつら
 彼ホが討畧小のせられくは惜や。それおけりても大八九門主人と頼む小太郎を
 行衆知れど。とされが兩人とを合せ信田の家國を押し領せんくみよるといせ
 も果とふ原九門。ヤアおのれが心お引競かくなりせそ。誠主君の先達より。おの
 館に忍びゆすん御尊顔の拜なれと。奥の好とるを押しおくれ。内あ信田の
 小太郎将春折鳥帽子も。錦の直無さるやうに。靴巻の太刀と帯。優然としく
 座一あハ御側扈從昵近の侍列を平して并居り。小太郎将春威儀けくろ
 予臍弱の眼より。かれ不忠の佞悪人を頼とせ。おろさる。夫お引く大八九門
 か忠義あより。家國の安堵満足しこと。兵藤太の不忠者の見懲る。中々誅戮
 の罪科。又行かざし。とせより。薩嶋一言もか。首あられ折うらに。お為が案内小
 登美川がとろ。入這入庭の面わらに。續て柳を勘藏九門が。あにふとほく。



の御状より「故土浦不相待とて後、當地の騒動いふゆゑんと存せしが、今候子
をらひあり。先々大蛇はれ則ち、せよを、清供らじゆとや、あぞ、小太郎、之
近く招はばせが、真心こそなれども、世の人口は、さぐれど、此籠、少くあつて、まじ。
是れ、その縁と、あさふりよと、身の謀を、改めて、おろひ、切られ、有さば、親の
最後と、言はば、さ。又我君と、別する、あづけ、何れ、ふ事も、詮方も、はくも、は、ま、ね
其風情、さ、後を、とりて、尾瀧、其内、浮島、子原に、打ひ、ひ。いよと、と、拙者、浪人
かれども、此太刀と、持来は、古主へ、帰糸の、願ひ、あつ、上と、互に、宝を、結納の
取らせ、相と、契約の、通、千葉と、信田との、婚姻、あ、は、た、中、の、い、れ、と、あ、人
は、こと、葉、み、揃へ、何、が、て、先君の、契約、あり、は、縁、組、我、が、違、妻、ま、う、ん、中、と、
伊、て、其、内、な、れ、が、その、事、主人、粧、姫、が、ご、う、う、ま、を、た、る、な、れ、が、お、お、訓、と、れ、里、附
の、女、あり、是、を、ま、ら、ぶ、あ、の、み、宿、清、人の、身、元、は、は、な、れ、は、優、倉、の、町、人、柳、五、助、流

が妹は、勢、待、女、即、ち、も、如、も、も、それ、ま、ご、の、君、仕、不、清、吹、拳、ま、う、は、と、い、つ、れ、の、滅、に
これ、は、清、心、配、が、じ、け、は、と、許、容、あ、く、お、和、ら、う、に、納、れ、國、か、た、は、薩、嶋、兵、藤、太
ひ、の、ま、ら、れ、て、行、や、此、悪、人、を、あ、び、て、家、萬、歳、叔、夫、より、も、其、内、と、古、御、へ、等、り
本地、不、安、堵、し、ひ、る、が、じ、と、れ、錦、の、袖、お、為、が、真、心、操、の、鏡、磋、磨、を、え、よ、り、勘、流
が、家、富、榮、の、依、倉、木、に、淳、島、千、原、鉄、平、が、狂、言、奇、語、の、智、仁、勇、か、ふ、葉、と、信、田
との、婚、禮、調、ひ、忠、孝、も、あ、れ、潮、來、府、志、を、で、さ、く、が、敷、か、さ、お、れ、が、庭、は、鶴、亀
御、代、の、松、と、壽、諷、ぞ、目、出、度、討、留、

忠孝潮來府志卷之五 大尾

忠孝潮來府志卷之五

